

第37回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～アングロアメリカ ②～

監修・講師

矢ヶ崎典隆

学習のねらい

アメリカ合衆国は、20世紀に世界的に影響力を及ぼす工業国・農業国に発展した。さらに、今日、情報通信技術の発展に伴って産業や社会は変化し、世界への影響力が増している。科学技術の発達によって、アメリカの工業地域や農業地域はどのように変化したのか、また、アメリカ的な生産様式と生活様式はどのようにグローバル化したのか、考えてみよう。

今回のポイント

- 科学技術の発達と産業
- 合理的な農業と食料生産
- 世界に影響を及ぼすアメリカ合衆国

■■ 科学技術の発達と産業 ■■

アメリカではさまざまな分野において技術革新の取り組みが活発に行われてきた。20世紀にアメリカが世界の工業国に発展した基盤として、石炭や鉄鉱石などの資源の存在が重要であったが、フォードシステムによる自動車の大量生産など、技術革新は重要な役割を演じた。さらに、産業構造が変化して脱工業化社会に移行し、情報通信技術が発達して情報化が進展した。こうした変化とともに、産業の中心地は冷涼な北部から温暖な南部へ移動し、サンベルトの新しい工業地域が誕生した。カリフォルニア州のシリコンバレーは、半導体メーカーが集中したことから、原料のケイ素（シリコン）にちなんで命名されたが、現在では情報通信技術関連の多様な企業の集積地である。農業の技術革新も盛んで、センターピボット^{かんがい}灌漑は西部の半乾燥地域をとうもろこしと食肉の生産地域に変えた。また、精密農業は、情報通信技術を活用し、効率的で持続的な生産を目指す、新しい農業の形態として注目されている。

■■ 合理的な農業と食料生産 ■■

アメリカの農業を支えてきたのは、家族農場と呼ばれる家族経営の農場である。もともと西ヨーロッパから混合農業の伝統が大西洋岸の植民地に導入されたが、広い農地を家族労働力で耕作するために、機械化が積極的に進められた。20世紀には、機械化、合理化、化学肥料や農薬の投入が盛んになり、「農業の工業化」が進行した。その結果、農家数は減少し、平均の経営規模は増大してきた。市場競争に打ち勝ち、収入を増やすために、高価格の作物へ転換したり、高収量品種を導入したり、特定の作物に専門化したり、機械化・合理化・経営規模拡大

をさらに進めた。アグリビジネス企業はこのような農業の工業化を促進している。それらは海外でも事業を展開する多国籍企業で、農産物の生産、流通、加工、そして農業関連資材の供給において大きな役割を果たしている。その結果、少数の生産者によって農産物が大量に生産され、とうもろこし、大豆、小麦、食肉などは重要な輸出品である。

■ ■ 世界に影響を及ぼすアメリカ合衆国 ■ ■

アメリカはさまざまな分野で世界を主導し、影響を及ぼしている。政治、軍事、経済における影響力はもちろんのこと、アメリカで生まれた生活文化や科学技術は世界的に普及している。19世紀末にシカゴの会社が通信販売カタログを用いた通信販売を始めると、それは小売店舗から離れて暮らす農村の人々にとって、必要な物品を入手するための有力な手段となった。また、ファストフード・チェーン、ショッピングセンターなど、アメリカで発展したサービスの形態はグローバル化している。一方、アメリカ的な食文化の普及によって、また、とうもろこしや小麦の輸出に伴って、世界各地で伝統的な食文化の画一化も進んでいる。農業では、アグリビジネス企業の海外進出によって、アメリカ式農業が世界に広まるとともに、国際的な食料価格への影響力が増大している。また、センターピボット灌漑の普及は、世界各地の半乾燥地域に導入されて、農地の拡大と景観の変化を引き起こしている。